

こんな活動です

平成12年から続く子どもヘルパー活動 ～だんだんと会話が楽しくなった。～

阿蘇	●活動名		●関係する学校名	
	子どもヘルパー活動		産山村立産山学園	
活動区分	学びによるまちづくりや地域課題解決型学習	地域人材育成	郷土学習	
	地域行事への参加・参画	ボランティア・体験活動	学校周辺環境整備	外部人材を活用した教育プログラム
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	学校運営協議会
	0人		1人	有
				企業・NPO等との連携
				有
				無

● 活動の概要・特徴や工夫

子供たちが独居老人宅や老健施設に出向いての交流や貢献活動を行っている。この子どもヘルパー活動は20年近く続いている。保護者の中にも経験者がいる長期継続活動である。4年生から7年生までの4年間活動する。4年生で委嘱状交付、7年生で終わるときに感謝状を村から受け取る。一人あたり年間数回の活動を行っている。特例教科(産山学)に位置付けている。学校と社会福祉協議会との連携・協働で実施している。これまで数々の受賞歴があり、全国の地域学校協働活動のモデル的活動となっている。

● 活動の様子

村から子どもヘルパーに任命されます。

活動内容について、みんなで検討します。

福祉協議会の方や民生委員さんの車で、高齢者のところへ行き、そこで活動します。

● 地域学校協働活動における効果・成果

子供、地域、学校(教職員)
 ○熊日新聞に投稿した生徒は「最初は会話できなかったが、だんだんと会話が楽しくなったことや戦争体験の話なども聞かせていただくこともあり、今はヘルパー活動の時間が短く感じられる。」と子どもヘルパー活動の感想を書いていた。
 ○子供たちの訪問を受けた高齢者は「この地区には子供がいない。子供たちが来てくれるのが何より楽しみとなっている。」と語っていた。
 ○この活動は福祉関係者と教育関係者が連携・協働した事業として数々の全国的な賞を受賞しており、全国のモデルとして、県内はもちろん全国各地へその取組が広がっている。